

令和8年度
近畿大学大学院 総合文化研究科 入学試験
【一般】

日 本 文 学 専 攻
外 国 語 科 目 試 験 問 題

【日本語】

試験開始の合図があるまでに、次の注意事項をお読みください。

- 1) 解答はじめの合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
- 2) 机の上には、受験票、HBの黒鉛筆又はシャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り(電動式は除く)、時計(時計機能だけのもの)、眼鏡以外のものは置かないでください。
- 3) 辞書については、持ち込みを許可されている専攻・コースのみ使用可能です。(電子辞書は除く)
- 4) 試験開始後、解答用紙に受験番号・氏名を記入してください。
- 5) 試験開始後に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁等に気が付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 6) 試験終了後、問題冊子はお持ち帰りください。

令和7年9月13日実施

次の文章を読んで、後の【問題1】から【問題3】に日本語で答えなさい。著作権の関係から問題については非公開とします。

(小泉八雲 Lafcadio Hearn 『石仏(THE STONE BUDDHA)』 林田清明訳による)

【問題1】本文の著者である小泉八雲(日本名)ことラフカディオ・ハーンについて知っていることを述べよ。(百字程度) その著作である「耳なし芳一」や「怪談」について、もし知っていれば適宜盛り込んで述べるように。

【問題2】傍線部①での問いについて、この著者はどのように考えているかを本文をもとに要約して述べよ。(百字～二百字程度)

【問題3】本文最後の段落の記述から、著者は日本の西洋文明取り入れをどのように評価しているかについて述べよ。(百字～二百字程度)

出題意図

【問題1】

小泉八雲とハーンについての問いは、主に日本文学に関する基礎的な教養を問う問題でもあり、同時に明治時代の日本文学の海外との関わりについて目を向けさせる意図のある出題でもある。

【問題2】

小泉八雲作品に定位して、日本と西洋における「自然」への向き合い方や把握の仕方の対比を考えさせることで、日本文化の独自性と変化、西洋文化との関わり方の位相について考えさせる意図を持った問いである。

【問題3】

出題文後半の要旨を問うことで、全体的な文章の読解力を問い、要点と要旨の把握力を測る意図のある問題である。全体として幅広い見識と教養をもっているかをみて、文章読解力の不可分な文化への理解度や素養を判別する出題意図がある。